

とらいの山甲から

たいぶさみさき

大房岬自然公園ニュースレターNo.91

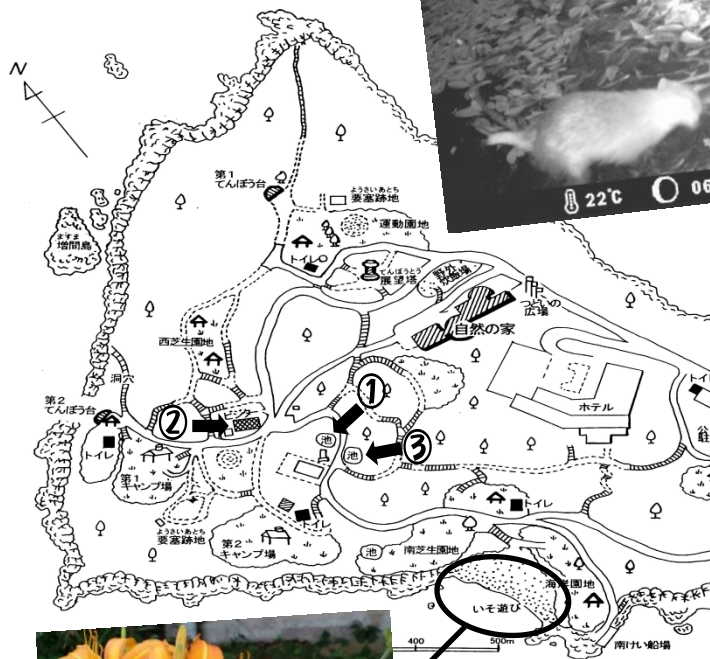


2014年
8月

夏本番! 真っ青な空の下で大合唱しています。大房岬では夏の夜のイベントを多数用意して皆さまをお待ちしています。ぜひおこしください!(詳細は園内ポスターやホームページで)

たいぶささんぽ

自然の様子や最近の出来事など、旬の公園情報をご紹介します。



午前がチャンス! 海岸で会いましょう

「ハマカンゾウ」

海岸線の岩場では、7月のスカシユリの花が終わり、ハマカンゾウが咲き始めます。暖地だけに咲くユリの仲間、海岸線を鮮やかなオレンジ色に彩ってくれる美しい花です。

花が開くのは早朝から昼にかけてなので、涼しいうちに会いに行ってみてください。

住人は夜動く…公園の哺乳類代表

「アナグマ」

名前の通り、穴を掘って暮らす哺乳類「アナグマ」。大房岬の生態系の中ではトップに君臨しています。キャンプのお客様がテント周りでアナグマに食べ物を盗られる被害があったこともありました。



夜のアナグマは何しているの?
…赤外線カメラが捉えました!

アナグマの生態を調査するために、6月から赤外線カメラを池周りの気に仕掛けたところ、深夜～明け方にかけてアナグマが水を飲みに来ている様子が何度もカメラに映っていました。(①)

また、ビジターセンターの裏でもアナグマが糞をしている様子をカメラが捉えています。(②) アナグマは土を掘ってミズビなどの土壌動物を土ごと食べてしまうので、糞は土っぽくドロドロしてかなり臭います。

ちなみに、日中の池にはトビが水を飲みに来ている様子も映っていました。

アナグマの顔。
目の周りの縦の黒横線が特徴→



大房岬ビオトープづくり 秋から始動!

大房岬自然公園では、ボランティアファンド(*)の助成を受けて、ビオトープ(多様な生き物が生息する空間)を園内に作る計画をしています。秋には現在の湧水地の隣にもう一つの池を掘り出します。(③) 高い山からの流れ込みがなく、雨水だけが頼りの大房岬

ですが、池ができたらアナグマだけでなくより多くの生き物が生息できるようになるかもしれません。

どなたでもボランティア可能。ぜひ一緒に!!



↑現在の湧水池。
生き物にとって貴重な環境です。

次回予定★11/13(火)池を掘りだそう!～土砂の掃きだしと落ち葉掃き

*公益信託自然保護ボランティアファンド助成事業